

安倍氏にひたすら迎合岸田首相

「敵基地攻撃」と「歴史戦」を叫ぶ安倍元首相に迎合し付き従う岸田首相。岸田政権の危険性が、ますます明らかになってきました。



安保法制について答弁する当時の安倍晋三首相(左)と岸田文雄外相(右)
=2015年5月27日、衆院安保法制特委

敵基地攻撃能力

安倍談話に応え検討加速

安倍元首相は敵基地攻撃能力について、「敵基地だけに限定せず、『抑止力』として打撃力を持つ」、「抑止力」とは「反撃能力によって相手を殲滅^{せんめつ}」することだと述べました（昨年11月の講演）。岸田首相は共産党の志位和夫委員長が「安倍氏の『打撃力』という議論を拒否できるか」と迫ったのに対し、「コメントは控える」と明確に否定しませんでした。

相手をせん滅

岸田首相は歴代首相として初めて所信表明演説で「敵基地攻撃能力」保有の検討を表明しましたが、昨年3月のツイッターで「敵のミサイル発射能力そのものを直接打撃し、減衰させる能力を保有することが必要」と投稿。安倍発言と変わりません。自身の任期中に改憲をめざすと明言。安倍氏の主張にひたすら従っているのが岸田氏です。

歴史修正主義 世界遺産推薦へ方針転換

佐渡金山の世界遺産登録の推薦をめぐり、安倍元首相ら“歴史修正主義”の主張に岸田首相が迎合しています。

佐渡金山は歴史的遺産として価値あるものですが、戦時中に朝鮮人の強制労働が行われた現場であり、その記録が不十分な下での遺産登録に韓国政府が強く抗議してきました。世界遺産の国内候補となり韓国政府が撤回を要求すると、安倍氏らは政府に推薦を求める決議をあ

佐渡金山

げ、安倍氏は自身のフェイスブックで「歴史戦を挑まれている以上避ける事はできません」と投稿しました。岸田首相や外務省は推薦には慎重とされていましたが、結局は「推薦」を閣議了解。官邸内に韓国の主張に反論する「歴史戦チーム」をつくることを決めました。

*歴史戦 南京大虐殺や従軍慰安婦問題など、歴史問題に起因する中国や韓国からの批判を「不当な日本攻撃」と解釈し、日本人はそうした「侵略」に反撃すべきだという、歴史問題を戦場とする戦い＝「歴史戦」と主張。

ウクライナ問題

ロシアは軍事威嚇をやめよ

国際社会は外交的解決へ力つくせ

共産党の志位委員長は12日、ウクライナ問題についての談話を発表、関係国に送付しました。

志位委員長が談話

談話は、ロシアがウクライナとの国境沿いに10万以上と見られる大軍を展開していることなどについて「明白な軍事圧力」だと厳しく批判。軍事力による威嚇をただちに止めるよう求めています。

事態打開へ、関係諸国が外交交渉を行っています。談話は「危機を増幅させる軍事的対応ではなく、紛争の平和的解決を定めた国連憲章と国際法に基づき、ウクライナの主権尊重の原則に立って、外交的政治的な事態打開の努力を尽くすこと」と強調。日本政府にもこの立場で臨むことを求めています。

日本共産党